

教 区 報

第118号 2022年12月

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428 「東日本主教々区宗務局」

<http://www.orthodox-sendai.com/>

orthodox@hyper.ocn.ne.jp



主・神・我が救世主 イイスス・ハリストスの降誕祭

『ハリストス生まる、崇め讃めよ』

降誕祭の祈りは光に満たされ、教会から溢れ出る。聖堂での祈りが始まる。壁に掛けられたそれぞれのイコンの前、イコノスタスの前に置かれた燭台、下げられたランパードにも光が灯される。至聖所の宝座も七つの光で輝いている。聖人と呼ばれる歩みも灯された大きな蠟燭が先導し、掲げられた福音書が続く。更に主教祈祷では其の右手に至聖三者を表す三本の長い蠟燭、左手には主の人性と神性を表す二本の長い蠟燭が輝き、地上のあらゆる処に届く神の真理として、ハリストスの光は平和と喜びで人々を満たし、私達は頭を垂れるのである。

かの羊飼いは貧しさと従順さに困って、天使等と共に喜び歌い、その歩みはベツレヘムへ続き主の降誕に出会う。博士達はたゆまぬ努力と知恵を得て星を見だし、星に導かれ献げ物を携えベツレヘムへと旅した。神の照らしは待望する人の長い苦しみの果てに届き、痛悔の涙で乗り越えた人に届き、神の愛に包まれ刻まれる。降誕祭の喜びを歌う私達の言葉の一つひとつに聖神は働き、増し加えられた光は聖堂から溢れ出てゆき暗闇にいる世界の人々に届く。



東日本主教々区「教区会議」6/25-26 札幌



札幌正教会信徒会館にて出席した神品・信徒理事と代議員で記念撮影

6月25日(土)午後から教区理事会が、26日(日)聖体礼儀後に教区会議が札幌正教会を会場にして開催された。昨年同様、コロナ禍で欠席委任を求める形で少人数での開催となった。

また、セラフイム大主教座下は体調不良のため遠隔地への移動が困難となったという事で欠席され、小池局長が議長代理として教区会議を進行した。業務報告と教団の三委員会（財務、規則、宣教）の報告、決算と監査報告、また業務計画と予算案ともに承認された。



故ワシリイ加藤神父様のリティア



教区会議本会議の様子

札幌のマトロナ高橋美智子姉は故ニーコン鉄郎兄の遺産から教区へ一千万円献金され、今後計画される教区センター建設基金として運用されることになった。篤信の申し出に、セラフイム大主教座下から感謝状と聖ニーコンの聖像が贈呈された。

また、25日(土)の主日徹夜禱に引き続いて、昨年6月25日に永眠された長司祭ワシリイ加藤国枝神父様のためにリティアを献じ、皆で神父様の永遠の安息をお祈りした。



マトロナ高橋美智子姉とご家族と共に

全国公会 7/9-10 東京本会



2022年度全国公会記念写真



公会本会議の様子



田畑神父(左)、小池神父(中央)、市村神父(右)



盛正教会での記念写真

7月9日(土)、10日(日)に今年の全国公会が開催された。コロナ禍による参加自粛を受け、東日本からの信徒代表員としては札幌正教会のパルメン傳法兄のみが参加した。

「平和を常に心して、平安を成し遂げる教会でありたい」との府主教座下のご訓示で始まった本会議では、業務と決算予算の報告、審議が行われた。その中では、ニコライ堂会館新築の建設委員会の立ち上げ、今後の教会会計の指針、教団の発刊物の予告などが報告された。会議の終わりには、今年新

築成聖された山手正教会から御礼の挨拶があった。

また、主日聖体礼儀において、小池宗務総局長(一関)のミトラの戴冠、田畑神父(石巻)と市村神父(足利)の金十字架の佩用がセラフイム大主教座下により祝福された。

小池神父の管轄する盛正教会では、7月17日(日)の巡回時、教会・婦人会・青年会から花束や贈り物が贈呈され、司祭としての長年の功績が認められてミトラの祝福を受けられたことを共に喜び、お祝いした。

セラフイム大主教座下のご動静

五月から七月

セラフイム大主教座下は、5月23日から27日にかけて東京において開催された神品教役者養成短期プログラム研修会に要所において参加され、ご指導にあたられた。また6月9日より13日まで東京のニコライ堂に滞在され、五旬祭の徹夜祷と聖体礼儀をご司祷された。

6月28日(火)、駐日セルビア共和国大使のアレクサンドラ・コヴァチュ大使が、サワ鐸木道剛兄の案内でセラフイム大主教座下を表敬訪問された。懇談では、セラフイム大主教座下の日本とセルビアの交流でのご貢献への謝辞から始まり、両国正教会の歴史的関係、現在の世界状況など多岐にわたった。

7月31日(日)には、東京復活大聖堂教会の信徒総会にも出席された。

八月から十一月

セラフイム大主教座下は8月下旬に腰に異変が生じ、療養と通院治療が必要との診断を受けられた。ダニイル府主教座下は長期療養の必要を認め、回復を目指してリハビリを続けて欲しいとの希望を



▲ 研修会で祈祷後にご指導なさる座下 5/27



▲ 五旬祭晩課の跪きの祈り 6/12



▲ アレキサンドラ大使と 6/28



▲ セルビア共和国大使一行と記念撮影 6/28



▲ 敬老会・聖名祭のモレーベン 9/4



▲ 東京復活大聖堂教会の信徒総会 7/31



首司祭サワ大浪神父様の埋葬式 8/20

8月16日(火)、休職中であつた首司祭サワ大浪佑二神父様(89歳)がご永眠された。大浪神父様は岩手県出身で、仙台教会の青年会でも活動なさつた。司祭叙聖は昭和40年。山手正教会の管轄司祭を長く勤められ、神学校でも定理神学を教授された。

8月20日(土)、東京復活大聖堂にてセラフイム大主教座下のご司禱によって司祭埋葬式が執り行われた。

伝えられた。しばらく奉神札執行を控えておられたが、そんな中でも、9月4日(日)には、聖名日モレーベンと共に敬老会感謝祈禱を、11月6日(日)には同様に聖名祭と七五三の感謝祈禱をご司禱なさつた。

10月16日(日)には、セルビアから一時帰国された山崎ヴェリツチ洋氏と奥様のアナスタシア佳代子姉がお見舞いに来られ、祈禱後にサワ鐸木兄と共に応接室にて懇談された。

また、10月16日(日)と11月13日(日)には、久しぶりに水口神父の陪禱と共に聖体礼儀を司禱された。リハビリの成果が予想よりも上がつておられ、今後、東京での奉神札の再開も視野に入れて体調管理を継続なさつておられる。



▲ セルビアの山崎ご夫妻および鐸木兄と記念撮影 10/16



▲ 聖体礼儀(仙台)10/16



▲ 聖名日モレーベンに参禱されたイオアン高橋輔祭と 11/6

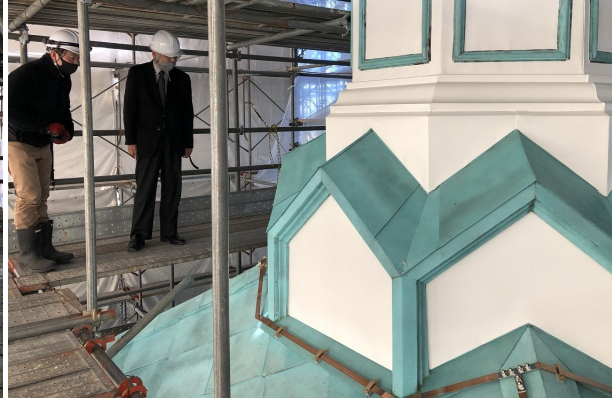
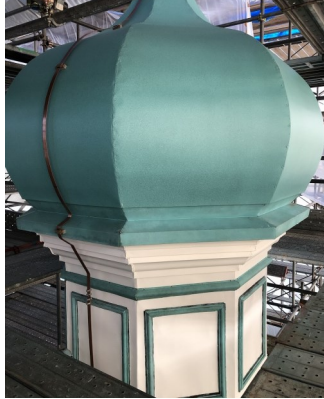


▲ 聖体礼儀(仙台) 11/13

函館ハリストス正教会聖堂保存修理工事



塗装前のクーポル



工事は、これまでに聖堂の耐震化、鐘楼修復、屋根の葺き替え、クーポルの加工を終え、現在は外壁の漆喰塗りの作業が大詰めを迎えている。11月末には聖堂を覆っている工事シートと足場が外され、修復された聖堂外観が見られるようになる。

イコンの修復は7月から9月の3か月をかけて行われた。蠟燭の煤やカビなどによりかなり汚損していたイコンは、丁寧な作業で見違えるように綺麗に



聖堂内壁の仕上げ塗

聖堂内は壁の漆喰仕上げ塗り、イコノスタスの清掃塗装が終わり、これから電気防災設備工事と建具の調整と塗装、花ごさを敷いた上に養生のカーペットが敷かれる。正門の耐震化も年内を予定している。年明けには聖堂本体の全ての工事は終了し、1月末に修復成聖を行う予定である。春に残された植栽、遊歩道の外構工事が行われ、2年に渡る工事は竣工となる。



正門耐震化の打合せ



イコノスタスの塗装



網戸の設置



祭台覆いの新調



函館ハリストス正教会 聖堂修復成聖式のご案内

函館ハリストス正教会・主の復活聖堂は、2年にわたる修復を終えて、年内に聖堂関連の工事が終了し、来年1月には教会に引き渡されます。聖堂の使用を再開するにあたって、下記の日程で聖堂修復成聖式を行います。

本来であれば多数の方々にご参拝を呼びかけるところですが、新型コロナウイルスの第8波の感染拡大や冬期間の聖堂内の換気の難しさ等を考慮し、セラフィム大主教座下ご司祷のもとマルコ小池宗務総局長と管轄司祭のみが陪祷する形で、各教会からの参加は出来るだけ少人数にして執り行いたいと思います。状況によっては直前の日程の変更などもあり得ますので、どうぞご理解の上、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

■日時 2023年1月29日(日) 9:30 聖堂修復成聖式・聖体礼儀

13:00 昼食会

※前日28日(土)16:00より晩祷

■場所 函館ハリストス正教会（主の復活聖堂）



▲床板が外され、中央に宝座が見える



▲養生されたイコノスタス

至聖所の床の一部が剥がれはじめ、この度床の全面を張り替えることとなった。この工事によって普段は目に出来ない教会の最重要部である宝座があらわとなった。コンクリートの大きな土台の上に、やはりコンクリート製の井戸の囲いのようなものが据えられている。中には木製の台付き十字架が安置され、十字架の天頂部に不朽体が納められている形である。

新しい床板はアムヴォン（昇壇）まで一体のものとなり、少し濃いめの色合いになった。

盛ハリストス正教会 至聖所の修復

各ブロックの宣教会議開催される



【北海道ブロック】7/30-31 釧路

今年度の研修会の日程を決め、また新たに北海道独自の教会リーフレットを作成し、その他の資料などと共に配布するコーナーを函館に設けること、道内の信徒情報の共有、教会報を各執事長に配布することなどを話し合った。



【東北ブロック】10/27 一関

連絡事項を確認した後、今後の予定について話し合った。特に間近にせまった「東北ブロック誦経奉仕者研修会」の運び方について詳細に打ち合わせた。また、教区報などの発行日や内容についても話し合われた。

「平日は働き、週末に教会に通うという生活では十分に神父様のお話や聖書についての学びに集中することができなかつた。神学校に入学してからは正教についての学びに集中することができると言う。菊池神学生は「入学して、むしろ自分が正教について何も知らないというのを気付かされた。分かつたつもりで放置していたり、気にも留めていなくなつたことの中に、大切なものが浮き彫りになつていく」とのコメント。「今は祈禱書の言葉をきちんと理解したいということが関心事。祈禱文をしっかり読み込んで自分が何を祈っているのかを理解したい」と続けた。二人のさらなる成長、活躍を期待して、豊かな主の恩寵があるように祈ると同時に、教団の将来を担う人材を自らの教会から是非送り出したいものである。



神学院校舎とニコライ堂



9月2日、東京の正教神学院に二人の新入生が入学した。足利教会のイウスチン菊池圭祐神学生(27)、大阪教会のゴルデイ松井裕治神学生(47)の両名。授業は9月6日から始まっている。神学生は聖書や神学、聖師父の言葉などの勉強に加え、日々の奉神礼(朝夕の祈り、前晩禱や聖体礼儀)の実地の中で祈禱について学ぶ。

松井神学生は「神品教役者養成短期プログラム」に参加し、今回改めて新学校に入学。

―全国のニュースから―

東京正教神学院新入生入学

9 / 2 東京

北海道ブロック 聖歌研修会

9月19日(月)、小樽正教会において北海道ブロック聖歌リーダー研修会が開催された。冒頭に、イコン修復で函館に長期滞在中のセラフイマ田中智恵子姉(東京)にイコンの講話をしていただいた。引き続き行われた研修会では、実技に加え、聖歌隊を率いるリーダーとして必要な資質の向上のために、自教会の問題点を把握して改善していくことや、今求められる研修会のプログラムを考えることなども行われた。

10月22日(土)・23日(日)に札幌を会場にして行われた全体研修会には、各地から参加者が集まり、リーダー研修会で決めたプログ

ラムに則って行われた。講師はエカテリナ児玉姉(函館)とエレナ笠原姉(釧路)、講話はエフレム後藤神父が担当した。

初めに講話「聖歌の歴史」を学び、発声練習の後、教会の実情などを元にグループ分けして実技の練習を行った。主日徹夜祷、聖体礼儀では歌う聖歌をグループで分担し、互いに歌い聞き合う場面を設けながら行われた。

聖歌リーダー研修会と全体会が一体となつて行われたことは良かった。課題を持ち帰り、自教会での研鑽を通して、また来年の研修につながることを期待している。



聖歌リーダー研修会記念写真



聖歌リーダー研修会での講義



聖歌リーダー研修会での講話



聖歌研修会の様子



聖歌研修会記念写真



聖歌研修会 聖堂での実践

東北ブロック 信徒懇親会

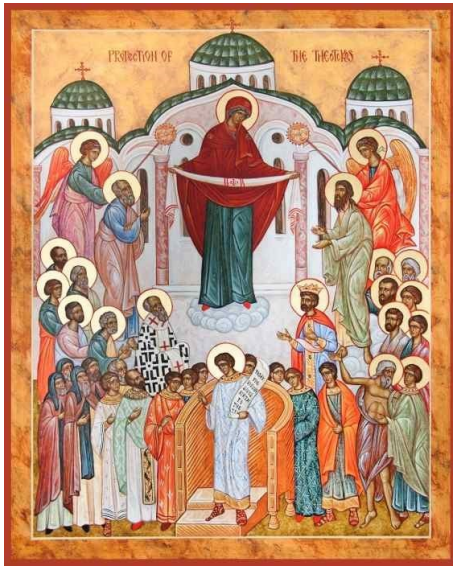
東北ブロックで毎年恒例となつて長らく続けられてきた信徒懇親会も、昨今のコロナ禍によってしばらく中止されてきた。この度、これまでの宿泊型から体験型の日帰り懇親会として3年ぶりに復活した。

9月19日(月)、一関に各地の教会から40名が集まり、聖堂での開会祈祷後、場所を小野執事長の経営する松栄堂に移して「伝統和菓子作り」を体験した。「コスモスと栗」をテーマに、職

人さんの指導を受けながら素晴らしい出来栄の菓子を作った。昼食は造り酒屋の蔵の中で、名物「餅とひつまみ」膳をいただいた。午後は創業百年を迎える老舗・京屋染物店での「藍染め」体験。ここでも職人さんから教わりながら、手拭を割りばしやビー玉で絞って思い思いの作品に仕上げた。

「会えてよかった。楽しみだった。来てよかった」の言葉が聞かれ、今回の懇親会の成功を喜んだ。





であり、神でありながら人となられたハリストスのみが神と人との交わりを回復する仲立ちとなり得る。つまりそれを仲保と呼ぶ。

一方、ハリスティアニンとして私たちがあべき姿の理想像として常に記憶される生神女マリヤ。彼女がハリストスを受け入れたことで、今や私たちは神との交わりに招かれ、神の恩寵と慈愛により、神に似た者となるべく導かれることとなった。従順と神の贖罪の業におけるその役割のため



「蓋、神は一なり、神と人との間には中保者も亦一なり、乃人ハリストス・イイスス、衆人の贖の為に己を與えし者なり」

(ティモフェイ前書2章5節)

聖使徒パウエルはハリストスを「神と人とのただひとりの仲保」と述べた。彼は教会を人間の体に譬え、頭をハリストスとする。頭であるハリストスの苦難、十字架の犠牲は、神の慈愛に基づく人々の救いの業

長司祭 クリメント 児玉慎一

ちゅうほ と てんたつ
『仲保と転達』

に、ハリスティアニンは生神女を聖人の中でも最上の者として讃美する。そして、ハリストスが地上にあつて最も親しく近い関係にあつた生神女に、私たちはハリストスへの執り成しを願う。また、諸聖人についても、彼らは神と人との仲保であるハリストスの救いを頼みとして生涯を全うした人々であり、その尊い業のために神の恵みを受けて天上において特別な位置を得ることとなった。私たちは彼ら諸聖人をも尊敬し讃美し、生神女同様にハリストスへの執り成しを願う。この願いに応えて、私たちが神との交わりに導く生神女や諸聖人の祈りを転達と呼ぶ。

「ハリストスは初めであり、真ん中であり、終わりでである。ハリストスは初めの人々、中頃の人々、終末の人々と、誰の中にもおられる…諸聖人が修道により世代から世代にわたって受け継ぎ、領聖により恩寵を受けて輝き、結合され、黄金の鎖となり、ひとりひとりがその鎖の輪となつて、信仰と行いと愛により前の世代の聖人と結ばれてゆく…」(新神学者シメオン)

生神女や諸聖人の転達は、私たちの祈りとハリストスの仲保の間にある。仲保が最初にあり、そのあとに転達が続く。神の愛と神の前に喜ばれ天上において義とせられた彼らの祈りは、人と人とを、人と生神女・諸聖人とを、そして主神救世主イイススハリストスとを結び、時と場所とを越えた繋がりを形づくっている。

— 宣教献金の御礼とお願い —

＋主の御名によりてご平安をお祈りいたします。

皆様方のご理解とご協力を賜り、昨年度は379件1,864,000円の宣教献金が寄せられ、わずかに目標額に届きませんでしたがお協力に感謝申し上げます。

今年も年末が近づき来年に向けて教区の宣教献金募集の時期になりました。下記の要領で募集いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。

記

- 2022年度宣教献金目標額 200万円
- 献金額 1口 3,000円（1口以上を目安にお願いいたします）
- 献金方法 同封の郵便振替用紙に住所、所属教会名、聖名、氏名を記入しこれまで通り、最寄りの郵便局（ゆうちょ銀行）にてお手続き下さい。
※ただし現金での振込の場合、別途手数料が発生するようになりましたのでご注意ください。
- 期 間 2022年12月6日 ～ 2023年5月31日

人物消息

― 敬称略 ―

（2022年5月～2022年11月）

	◆ 洗礼「教会名・聖名・氏名・受洗日」		◆ 永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」		
札幌	フェオドル山口 馨	フエオドル山口 馨	ニーナ 大竹妙子	フエクラ 村上道子	ワシリイ 中島 勤
小樽	ガリーナ・タダ	ガリーナ・タダ	ニーナ	フエクラ 村上道子	ワシリイ 中島 勤
函館	イラリオンイサコフ正雪	イラリオンイサコフ正雪	ニーナ	フエクラ 村上道子	ワシリイ 中島 勤
中新田	スサンナ 早坂ゆり	スサンナ 早坂ゆり	ニーナ	フエクラ 村上道子	ワシリイ 中島 勤
ヒオニヤ 早坂雪音	ヒオニヤ 早坂雪音	ヒオニヤ 早坂雪音	ニーナ	フエクラ 村上道子	ワシリイ 中島 勤
アンドレイ熊谷鷹李	アンドレイ熊谷鷹李	アンドレイ熊谷鷹李	ニーナ	フエクラ 村上道子	ワシリイ 中島 勤
5月29日	5月29日	5月29日	8月19日	6月18日	9月
5月14日	5月14日	5月14日	8月19日	6月18日	9月
5月15日	5月15日	5月15日	8月19日	6月18日	9月
6月7日	6月7日	6月7日	8月19日	6月18日	9月
6月15日	6月15日	6月15日	8月19日	6月18日	9月
8月20日	8月20日	8月20日	8月19日	6月18日	9月
10月5日	10月5日	10月5日	8月19日	6月18日	9月

※洗礼おめでとうございます。



※永遠の記憶をお祈りいたします。

	◆ 永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」				
白河	マルコ 武内淳蔵	マルコ 武内淳蔵	ニーナ 岩淵道子	アガフィヤ伊勢冬子	アンナ 森影佳子
テイト 鈴木信夫	テイト 鈴木信夫	テイト 鈴木信夫	ニーナ 岩淵道子	アガフィヤ伊勢冬子	アンナ 森影佳子
6月4日	6月4日	6月4日	10月4日	9月5日	9月13日
11月9日	11月9日	11月9日	10月4日	9月5日	9月13日
6月8日	6月8日	6月8日	10月4日	9月5日	9月13日
5月20日	5月20日	5月20日	10月4日	9月5日	9月13日
10月4日	10月4日	10月4日	10月4日	9月5日	9月13日
9月8日	9月8日	9月8日	10月4日	9月5日	9月13日
6月8日	6月8日	6月8日	10月4日	9月5日	9月13日
11月10日	11月10日	11月10日	10月4日	9月5日	9月13日
11月12日	11月12日	11月12日	10月4日	9月5日	9月13日